

エコ時代の 自然エネルギー活用日記

太陽電池で動くカラス撃退器

漆谷 正義

Masayoshi Urushidani

第3回

動機

「鳥の鳴き声でカラスを撃退しているが、音が届かない」と言う話を聞きました。仮に鳴き声が届いたとして、本当に「鳥の鳴き声」で鳥が逃げられるのでしょうか。

筆者の住んでいる町には、ぶどう(巨峰)を栽培する果樹園があります。カラスが収穫間近の果樹をついばんで被害を与えているようです。

百聞は一見にしかず、早速この農園を訪ねてみました。その結果、鳥の天敵の鳴き声、あるいはこれに対する警戒を意味する鳴き声を流すと、カラスなどの害鳥がかなりの確率で逃避することが分かりました。しかし、広い農園では音が届かないために、何台も同じ撃退器を購入する必要がある、経済的に割に合わないようです。

音声はスピーカーをトランペット型として、かつ出力

を大きくすれば遠方まで届くでしょう。さらに、このような音声による撃退器を太陽電池と組み合わせると、電力を食わない、エコ時代にふさわしい装置が出来上がりそうです。早速、製作しました(写真3-1)。

● 行列のできるぶどう園を訪ねる

目ざすぶどう園は、杉の防風林に囲まれた1.7ヘクタールの広大な敷地に、人の背丈ほどの果樹棚が、所狭しと軒を連ねていました。訪ねた時期は冬季(2月)であり、実も葉も無くなって枝だけとなった姿は、あたかも春を待ってエネルギーを蓄えているようにも見えます(写真3-2)。

ここのご主人は2代目に当たりますが、開拓者として入ったお父さんの時代は、機械など一切無く、人手だけで荒野を切り開いたとのことでした。その苦勞を見て育ったご主人が、ひと言では表せない、と感慨深く語っていたのが印象的でした。

この農園はスーパーなどには出荷せず、もっぱら口



写真3-1 製作したカラス撃退器

特徴は三つ。カラスにカラスの声で危険が迫っていることを知らせる音を再生する、トランペット・スピーカーを利用することで広範囲に鳴き声が伝わる、太陽電池を搭載しており電源不要。



写真3-2 春を待つぶどう園と主人